

HBc抗体「陽性」、HBs抗原「陰性」とは？

1. 献血時に血液検査(ウイルス検査)を行うのはなぜ？

→献血した血液にウイルスが入っていないかを調べ、輸血用血液にウイルスが混入するのを防ぐためです。

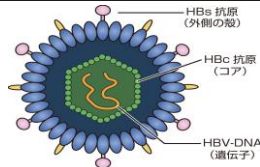
ウイルスに感染している人の血液を輸血すると患者さんに感染が起こることがあります。そのため、献血されたすべての血液に対し、さまざまなウイルス検査を行い、輸血用血液へのウイルスの混入を防いでいます。



2. B型肝炎ウイルスに感染しているかどうかは何を調べているの？

→B型肝炎ウイルスがつくる蛋白(HBs抗原)やウイルス感染に対する免疫反応によってつくられる抗体(HBc抗体)を調べています。

B型肝炎ウイルスは球形のウイルスで、外側を被う殻(HBs抗原と呼ばれる蛋白が埋め込まれている)と、中心にあるコア(HBc抗原と呼ばれる蛋白)、とDNA(遺伝子)から構成されています(右図)。右表にB型肝炎ウイルス関連検査の種類とその検査が陽性の場合の状態を記載しています。



HBs抗原	ウイルスの外側を被う蛋白 「陽性」:現在感染している。
HBc抗体	HBc抗原に対する抗体 「陽性」:現在感染しているか、過去に感染したことがある。
HBs抗体	HBs抗原に対する抗体(HBVの感染を防御する働き) 「陽性」:過去に感染したことがある。
HBV-DNA	B型肝炎ウイルスの遺伝子 「陽性」:現在感染している(検査の精度が高い)

3. あなた様の検査結果(HBc抗体陽性、HBs抗原陰性)は何を意味しているの？

→HBc抗体が陽性、HBs抗原が陰性ということは、「過去にB型肝炎ウイルスに感染したことがあるが、現在は治っている状態」であると考えられます。

B型肝炎ウイルス感染者の70~80%は肝炎症状が起こらないで自然に治ってしまいます。したがって、これまで献血いただいた血液は輸血に使用されてまいりました。しかし近年、非常に低い頻度ではありますが、治った後でも血液中に微量のB型肝炎ウイルスが見つかる場合があることが明らかとなってまいりました。

4. すぐにしないといけないことは？

→特にありません。普段の生活に問題は**ありません**。

5. 医療機関に受診する必要は？

→今回の検査結果をもって**医療機関(病院)を受診する必要はありません**。

ただし、今後入院治療するような大きな病気(癌や移植など)に罹った場合は、念のため担当医師に今回の内容をお伝えください。

また、今回のお知らせに限らず、すべての方々が年に1回程度、健診などで肝機能検査を受けられることをお勧めします。

6. 今後の献血は？

→上記3. で説明しましたように、非常に低い頻度ではありますが、治った後でも血液中に微量のB型肝炎ウイルスが見つかることが明らかとなってまいりました。

そこで患者さんへの万が一の感染を防ぐために、**これからの献血はご辞退くださいますようお願いいたします**。より安全な輸血のため、どうかご理解をお願いいたします。

注)血液センターでの検査は、安全な輸血のため少しでも疑わしいものも含めて「陽性」と判定しています。そのため、本来は陰性であるにもかかわらず、あたかも陽性と反応してしまうこともあります。その場合、医療機関で同様の検査を受けた結果、陰性となることもあります。